

平成 27 年度 松本地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	つどいの広場における子育て中のお母さん・お父さんの居場所支援事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人ワーカーズコープ 松本事業所 (松本市城東 2-6-17 ハイツリラ 101 号)
事業区分	(5) 子育て支援 (1) 県と市町村との協働事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	総事業費 486,908 円 (うち支援金: 371,000 円)

事業内容

1. 子育て中のお母さん・お父さんの居場所支援事業

ア) お母さんのための癒しの空間

子育て中のリフレッシュのため、専門家や地域の達人をお招きし、要望の多かった託児をつけて実施した。

- <岡田> ①タッチケア ②和みのヨ〜ガ ③アロマ  
④スクラップブックング ⑤ちくちく (裁縫)

- <寿台> ①エアロビクス ②ヨーガ ③コンサート

※参加費無料 (材料費別途)、託児は無料



【ヨガ講座】

イ) 子育て支援講演会

連続・単発講座で、子育てに関する専門家をお呼びして講演会を開催し、育児をサポートする。

- <岡田> 「リトミックから学ぶ豊かな想像力の形成」堀口愛子氏

- <中山> 「子育てと絵本の関わり方」越高令子氏

「子どもの発達と親の関わり方」神澤真江氏

※参加費無料、託児も無料



【郷土食体験】

2. 郷土食体験事業<寿台>

地域の高齢者・達人を講師として招き、中信地域の郷土食を教えて頂きながら世代間交流を図り、地域ぐるみでの子育てに繋げる。

- ①五平餅 ②冬至かぼちゃ団子 ③三九郎まゆ玉 ④やしょうま

※参加費、託児無料



【託児風景】

## 事業効果

- ① チラシ、ポスター、ポスティングなどの効果により「癒しの空間」「子育て講演会」「郷土食体験」などに新規利用者も含めたくさんの参加者があった。子育てに不安を抱えながらもどうしてよいかわからなかった母親たちが参加をしてみたことで安心感の増加、負担感の低下があり、継続利用に繋がっている。また、ニーズを吸い上げての、専門家による講演会・講座では、学ぶ喜びと次につながる意欲の向上がみられた。
- ② 託児付きの事業を展開することで、参加者が子どもから離れ講座に集中することが可能となり、心身ともにリフレッシュすることができた。この時間を過ごすことで、子どもへの愛着が増し、託児者への感謝の思いにも至っている。託児者は、地域のボランティア中心で親近感・安心感の点で好評だった。託児者の姿を見ることは育児のヒントを得る機会にもなり、託児付きの事業は、本人のリフレッシュだけでなく子育てのオアシスになっている。回数を追うごとに参加申し込みのペースが速くなり、参加者も母親だけでなく地域全体にひろがっている。
- ③ 郷土食体験交流を通して、地域の世代間交流、文化の伝承が自然な形でできた。お母さん世代にとって地域の食は大きな興味であり、また地域の高齢者、食の達人にとってはそれを伝えていくことが生きがいでもあり、ニーズとニーズが見事にマッチしたことになる。託児、講師など地域人材の活用は、地域の力をつけ近所みんなで子育てを行う基盤をつくることができた。身近なところに育児の味方が増え、相談する人や機会が増えることは、育児の安心感につながっている。

## 今後の取り組み

- お父さん、おじいちゃんも積極的に取り込んでの育児を進めるために、企画を工夫する。
- アンケート実施などで、よりニーズに合った支援を目指す。
- 0～18歳まで切れ目のない支援を目指すためにも、つどいの広場と児童館・センターとの協働を進める。
- 今、支援される側にいる参加者がいずれ支援者側にまわって自身の体験を伝えていかれるような循環を目指す。

### 【目標・ねらい】

- ① 核家族化の進行、地域の教育力の低下により子育てに不安を感じながら孤立する子育て世代（特に母親）の悩みや心配事を解消し、自信を持って子育てができるようサポートする。
- ② 従来より参加者から要望の大きかった託児付き事業を企画し、子育て期のリフレッシュに役立ててもらおう。
- ③ 地域の関係性が希薄となりつつある社会で、子育てを通して、地元の達人、高齢者、子育て先輩世代と交流し、人間関係の輪を広げる。

### ※ 自己評価【 A 】

#### 【理由】

つどいの広場事業の限界を突破して、託児付きの事業を展開したことは、利用者からの感謝の声となって成果が表れている。

子育ての負担感低下の手助けをしたのは、託児者、講師をはじめとした地域の先輩世代であり、その感謝の思いが母親の育児観を変えていくことになっている。

苦しい時は誰かの手を借りればよいと思える子育てで、親子の愛着面にもいい影響がある。